

## ボブベックのやさしい投資信託

### 第25 株式型投資信託のリスク その1

今回から株式型投資信託のリスクについて解説していきます。とは言っても、株式型投資信託に株価変動のリスクがあることは、このコーナーを読んでいる皆さんにとっては周知のことかと思えます。そこで、株式型投信の種類によってどのような違いがあるのかと言う点に焦点を当てて説明していきます。

#### (7-a)株式型ファンド - アクティブ型とシステム型ファンド

今回は「アクティブ型ファンドとシステム型ファンドの違いに」について解説しましょう。投資信託協会ではこのような分類をしていませんし、大手投信評価機関でも使ってはいないようです。しかし、ファンドの名前にも『アクティブ ファンド』『システムファンド』のように使われていますし、ファンドの性格を知るためにも、アクティブ型とシステム型の違いを知る事は重要です。ファンドの運用プロセスを理解できるというメリットもあります。(とは言え、最近はアクティブ型ファンド全盛で、システム型ファンド設定という話は、余り聞きません。)

##### 米国では

米国では、このような区別はしません。アクティブ型とパッシブ型に区分します。この分類なら、英語訳を考えても分かりやすいのではないのでしょうか。パッシブとは「受け身の」「受動態の」という意味です。アクティブは「活動的な」とか「積極的な」という意味ですね。

つまり、アクティブ型ファンドとは、ファンドの中身を積極的に入れ替える事で、より良いパフォーマンスを狙っていきこうと言うファンドなのです。これに比して、パッシブ型のファンドは、ファンドの中身を動かさず、「果報は寝て待て」のファンドです。インデックス型ファンドのように、銘柄を一度決めたら入れ替えをほとんど行わ

ないようなファンドは、パッシブ型に分類されるのです。

##### アクティブ型とシステム型

日本では、米国のような分類をせずに、アクティブ型とシステム型に区別していません。この場合のアクティブ型ファンドは、上に説明した米国の分類よりも非常に狭い意味に使っています。即ち、ファンドマネージャーが、株式であれば個別銘柄の成長性や株式価値を分析し、債券であれば金利の動向を予測して、ポートフォリオの中身を積極的に入れ替え、より良いパフォーマンスを目指す。そんなファンドを総称してアクティブ型ファンドと呼んでいるのです。あくまでも、ファンドマネージャーが自分自身の考え(または会社の考え)で、積極的にポートフォリオの中身を入れ替えていくファンドなのです。

システム型ファンドは、インデックス型ファンドを含みますが、もっと幅広い意味に使います。ある決まったルールに基づいて株式や債券、為替の売買を行ったり、株式や債券の価値をコンピューターではじき出し、これに従ってポートフォリオの中身を入れ換えるファンドは全てシステム型ファンドなのです。つまり、「アクティブ」にポートフォリオの中身を入れ換えるファンドだとしても、ファンドマネージャーの判断ではなく、ルールに基づいていたり、コンピューターの指示で入れ換えるのなら、システム型ファンドに分類しているのです。そういった意味で「アクティブ型とシステム型」と言う分類は、非常に曖昧な分類と言えるでしょう。

##### どちらが優れているの？

もし、この問いに対する答えがあるとするならば、この世の中のファンドは全てアクティブ型ファンドになるか、全てがシステム型ファンドになってしまうでしょう。この問いに対する正しい答えは無いのです。あるとするならば、「この期間は、システム型ファンドの方は良かった」「当面は、アクティブ型ファンドの方が良いパフォーマンスになりそうだ」という程度なのです。